

NPO法人 夕立山森林塾（恵那市）

農山村

森林保全

取組の背景

平成12年9月の恵南豪雨災害では、手入れ不足の森林、特に放置された人工林などの存在が、上流域のみならず下流域への甚大な被害の原因とされ、緊急の対策を要する状況にある。これは全国的な課題であるが、長引く林業・木材産業の不振により森林に対する認識が低下しており、抜本的な対策が打ち出されていないのが現状である。

これに対して、愛知県豊田市では、森林所有者や都市住民のために、森林ボランティア団体やNPOと行政が協働して森林の重要性や山の仕事を科学的に教える森林塾を開催するとともに、危険な実態を知る森林調査「森の健康診断」を実施している。その結果、森林所有者や都市住民の認識が大きく変わりつつあることから、その上流域となる岐阜県内において取り組みを継続し、地域の森林再生のみならず山村の活性化をめざして「夕立山森林塾」が設立(平成18年3月)された。

取組の概要

各種講座をとおして森づくりの大切さを訴え、森林ボランティアを育成するとともに、素人山主に安全で科学的な山仕事の楽しさを伝えることで、地域の森林再生のみならず山村の活性化をめざしている。

取組の内容

- 森林ボランティア養成講座の開催
 - ①山間地域のこまやかで豊かな暮らしを未来に継承するとともに、科学的で愉快的な山仕事を地域の山主さんや一般市民に伝える森林ボランティアを養成
 - ②森の健康診断のチームリーダーを養成
 - ③自然観察会の開催
 - ④地元学の開催(受講生と地域山主との交流)
- ※原則的に①～④をセットで受講
- 卒業メンバーによる新しい森林ボランティアグループづくりを支援
- 森林現況調査、間伐方法、保残木マーク法、

チェーンソーによる伐採、なた、のこぎり、チェーンソーの使い方手入れ方法、造材、出材（トビや林業機械の使用法）まで、森林施業に関する基本的な知識・技能を習得

成果

- 本年度受講生(61名)のうち、40名が恵那市以外の居住者であり、都市部との結びつきが強まった。
- 地元学を開催したことによって、参加者が山村の暮らしを生活として実感、共感し、活動へのモチベーションが高まった。
- 卒業生の中から新たな森林ボランティア団体を立ち上げる動きがあり、その支援をしていく。

成果の要因

- スタッフ(6名)がそれぞれ得意とする分野で力を発揮している。
- 地元で厚い人脈を持っており、フィールドの提供など地域が活動に協力的である。
- マスコミをうまく活用して広報している。

今後の課題

- 活動に係る人件費などの経費の捻出
 - 現状の受講費(20,000円/人)を値上げする動きもある。
- 受講生のレベルアップ(参加人数を絞って質を向上したい)
- 炭焼など単発の企画を開催

行政への期待

- 行政主導にはしたくない
 - 活動に自由度がなくなるから
- 参加者の信頼性を高めるため、行政が窓口になったり、アンケートなどに協力してほしい。

この人にお話をうかがいました！

NPO法人 夕立山森林塾
事務局 清藤奈津子さん

調査日：平成18年11月2日(木)

調査者：林政課 安達 東濃振興局恵那事務所 長沼、北神